おもい

燐火ゆらめく 村のおもかげ

―光によるヘドロ浄化と水没村再編の提案―

・デ、ヨイヤサ、ケートッセ・

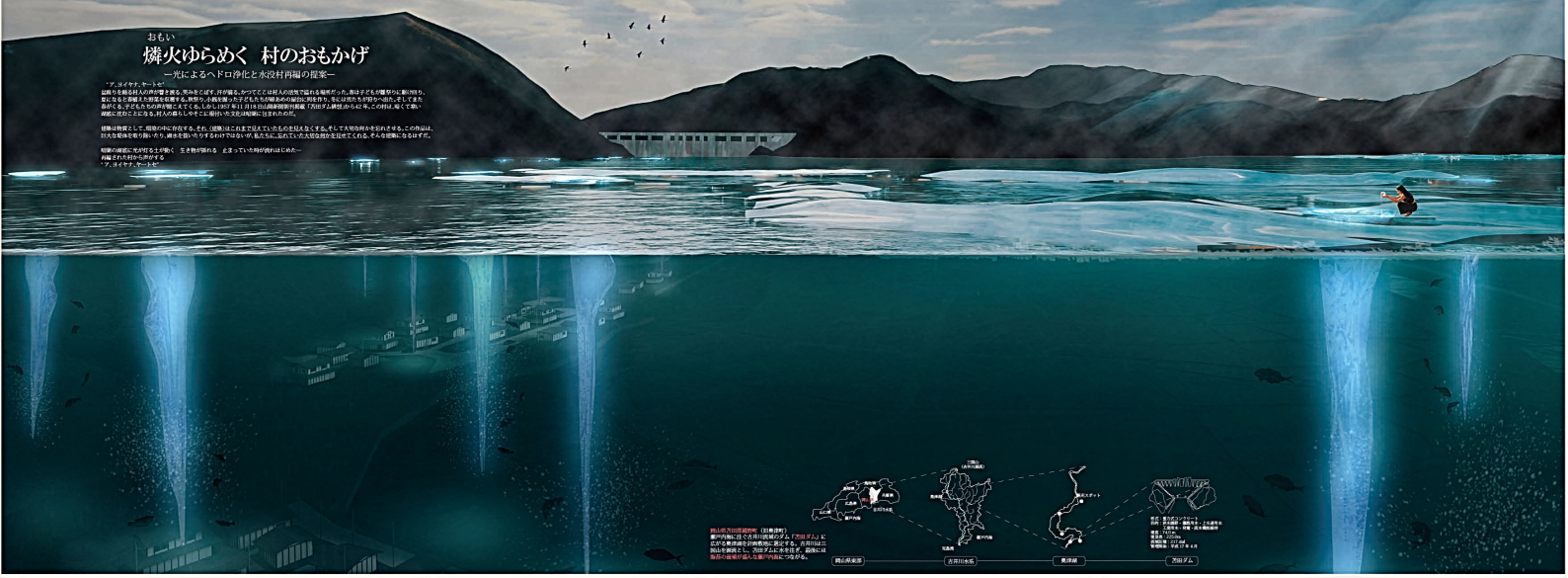
記録から幕末に村人の声が響き渡る。荒ぶるどぶ、汗が滴る。かつてここは村人の活気で溢れる場所だった。昔は子どもが駆け回り、歌になると祭囃子に興じ、夜になると祭囃子と無駄なお喋りをする、興奮から興奮へと子どもたちも村人のための献立に料理作り。をには荒たち砂浜へ出た。そしてまた色が、そして、子どもたちが非常に大きくなる。しかし1957年11月18日に高度経済成長期下、「万田ダム」建設から42年。この時に、あって、ゆっくり、確認に、ヘドロとどぶ、村人の暮らしやそこに棲むいた文化は地獄に注ぎ込まれた。

建築は、時間と共に、現場の中に存在する。それ、(建築)は、これまで見えていたものを見えなくする。そして大切な何かを見えさせる。この作品は、ヒトを知覚を取り除いたり、緑を太陽いたりすることはなく、私たちに、忘れていた大切な何かを見せてくれる。ダムの記憶に、なるはずだ。

昭和の頃に、光が戻ると、汗を流し、ヒトが集まり、生き物が戻れる　止まっていた時が動かはじめた―

再編された村から、声がする

・デ、ヨイヤサ、ケートッセ・



01 【調査1】 生活に欠かせなくなった日常　ダムの深淵とは？

ダム堆砂 100年問題と深淵のヘドロ化

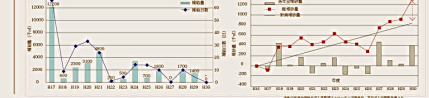
ダムは私たちの生活に欠かせない建造物となった。万田川流域も例外ではなく、水辺のくらすであれば、ダムがよりも、過剰期にたたされている。ダムの中央はダム底に向かって砂の堆積が進行中。計画時の耐用年数は約100年を目安に定められるが、100年経ずに、計画時の容量を減らされ、貯水容量が確保できずダムとして機能しなくなるおそれ。現在94のダムが、186のダムが計画時の容量を超えている（令和1年度末時点）。そこで現在されている堆砂対策が大きくある。

02 【調査2】 苦用ダムの刺水・堆積状況は？

【現状調査】

補給日数 0日 .

年平均230万m³の利水機能を担っていた。しかし近年は、下流での水需要が減少し、万田ダムが役ってもその足りを担っていたが、現在は、ほとんどまでしか下流のれ人は水取に必要でなくなった。



【堆積状況】

計画堆砂量超過 .

計画堆砂年100年、計画堆砂容量6000千m³である。平成31年3月時点の堆砂容量は131万m³で計画堆砂量、貯水容量が容量に大きな変化が確認できない。砂が、流れてきて、しかしそれ人は水取に必要でなくなった。

03 【調査3】 見えるものを見えなくした苦田村の光闇の歴史とは？

ダム反対運動死闘の42年

万田ダムがある場所は今から4500人の村人が暮らす穏やかな村が広がっていた。

人口 ○○人
世帯数 ○○世帯
農業 ○○ha
漁業 ○○人
○○人
○○人